

令和元年度 ちぐさこども園 学校関係者評価委員会

日時： 令和元年 3 月 24 日 (火) 12:00～13:00

場所： ちぐさこども園保育室

出席者： 青木忠昭(法人役員)、中島國恵(同)、大脇博(同)、山田龍之介(同)、星川嘉一郎(元市議)、高田華寿子(元民生委員)、金井竹徳(郷土史家)、石田宇平(ユネスコ協会会長)、片野光男(保護者代表) ※順不同、敬称略

1. 本園の教育・保育目標

「意欲」・・・ 面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、「～したい」につながるエネルギーを心身ともに培う

「感性」・・・ 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く

「思いやり」・・・ 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、他者を慮る心や態度を培う。

2. 本年度自己評価と学校関係者評価

項目		自己評価		学校関係者評価(意見)
本年度 重点	① 職員間の 保育共有・ 連携	A	公開保育を通して、全体または担当者間で話し合いを重ね、保育の共有を図ることができた。	<ul style="list-style-type: none"> 県下で唯一の3回目の指定公開保育を実施した姿勢が素晴らしい。 公開保育のためではなく、日頃の積み重ねが大切。ちぐさはそれができている。 県内外から多くの幼稚園関係者が訪れ、感心している様子が誇らしかった。
	② 第三者の 活用拡充	A	前年度のアーティスト参加の取組みを分析して、発展させた取組みができた。	<ul style="list-style-type: none"> 画家の滞在制作は、非常にユニークで面白い試みで、子どもにとっても、大人にとっても貴重な機会になったと思う。 第三者評価の実施は、先駆的で、これからの園運営には必要な取組みになる。
	③ 働き方改革 の推進	B	准職制度を導入したが、内実が伴わない部分もあった。	<ul style="list-style-type: none"> 待遇アップは評価できる。 制度定着や意識改革には時間がかかるので継続してほしい。
総合		A	「ともに」のスローガン通り、全職員が力をあわせて、公開保育や保育の質向上に力を発揮した。おかげで、次年度以降の課題も明確になった。	<ul style="list-style-type: none"> 卒園生が真面目、礼儀正しい、思いやりがあるなど、“品”がある印象。良い意味の“ちぐさブランド”を大切にしていってほしい。 先生が真面目に一生懸命やっている。ベテランから若い人までチームワークが良い。 着実に積み重ねて、一步一步前に進んでいる。